

成田空港緊急戦略 プロジェクト会議資料

平成22年1月27日



成田市

発表の要旨

首都圏の空港利用者に、今後も成田空港
を使っていただけるための緊急戦略について

成田空港の魅力をさらに高めるために、空
港周辺地域の機能充実に向けた戦略につい
て

首都圏の空港利用者に 今後も成田空港を使っただけのための緊急戦略

今年10月からは成田と羽田は競争関係

今年10月から羽田の国際線は0.8万回から6万回になり、将来的には10万回近くまでくる可能性

一方、成田は30万回への取り組みは動き出したが、当面は22万回

成田は国際線の基幹空港で、羽田はその補完的役割というスタンスは、一切妥協できないが、現実的には、利用者が成田と羽田を選択していくため、羽田に対する競争力をつけることが急務

しかし、いまだに「成田は遠い、不便、羽田は近い、便利」といったイメージ

このまま今年10月を迎え、いったん羽田に流れた利用者は戻ってこない可能性がある、残された時間は少ない

2

「成田は遠い」というイメージ払拭

成田新高速鉄道開通という武器を使い、 インパクトある関係者一体となった徹底的な情報発信が必要

今は、日暮里から成田は51分、日暮里から羽田が約40分だが、成田新高速の開通で、日暮里から成田は36分と初めて逆転、新高速51分 36分の本当の意味はここにある

日暮里より北の東京北部、埼玉は、時間的には成田の方が「近い」ことになった

ただ、埼玉の人でこの事実を認識している人がどれだけいるのか、いまだに羽田は1時間、成田は2時間という感覚ではないか

交通事業者さんだけでは限界があるので、知事を中心に地元市町、空港会社、観光会社等、官民が一体となった組織を立ち上げ、この1年で徹底的に情報発信をやっていただきたい

また、押上から東京、泉岳寺の短絡線の取り組みも、10年後を見据え、ぜひとも早期着手への尽力をお願いしたい

3

成田空港の優位の強化

現在の利用者が引き続き利用してもらう仕組みづくりが必要

首都圏の国際線利用者のほぼすべてが成田に来ている今、今年10月からはこの中の何割かが羽田に流れる可能性があるため、**今後も成田を使い続けてもらえるように働きかけを行う必要がある**

「国際線は成田」というブランドが有効なうちにこの層を取り込んでおく必要がある

具体的には、**地域や官民が連携して成田のリピーターに対して、アクセス料金、空港内外でのサービスなどで特典があるような仕組みができないか**

また、成田市では、1月から2月にかけて成田空港利用者に、2010年の羽田国際化後も成田を使い続けるのか、**どのような点を改善すれば使い続けるのか**などの意識調査を行うので、**その結果も踏まえて、ご参加の事業者さんのご協力をお願いしたい**

自動車でのアクセス優位性の強化

高速道路など幹線道路網の整備と、 自動車利用者に対する優位性をさらに強化する

北関東方面からの高速バス、自家用車等のアクセス改善のための圏央道、北千葉道路、空港環状・放射状道路の成田小見川鹿島港線、成田松尾線などの早期供用などは、**道路関係予算が厳しい折、知事の強力なリーダーシップが不可欠**

また、成田の強みとしては、**羽田に比べて、周辺の駐車場の安さ、使いやすさを強化する視点も重要**

さらに、**重い荷物をもった海外旅行者にとっては成田の方がむしろ便利、今後の高齢化等を考えると車でのアクセスができる成田はむしろ成長する可能性がある**

高速道路渋滞による遅延の懸念の払拭(情報提供など)、都心から空港利用者に対する高速道路の料金への支援も検討できないか

将来の成田空港ファンの開拓等

成田空港の潜在的なファンの開拓と、
「成田空港ブランド」を磨き上げる成長戦略が必要

今回の羽田ハブ空港論の中で世論は圧倒的に羽田支持。今後5年後、10年後を考えたときに成田空港ファンを開拓、育成すべき

特に首都圏の学校、地域等の空港の見学受け入れ、戦略的広報も必要

東アジア等からのメディカルツーリズムの拠点として成田を位置付けてもどうか

成田の強み、いわゆる「成田空港ブランド」を磨き上げるソフト面の方策については、旅行マーケティング、戦略的広報等に詳しい民間有識者の知恵を借りる必要があると考え、成田市として「成田空港成長戦略会議」を立ち上げ(2月5日第1回会議開催)、これから本格的に議論を始める

この会議にも、その検討結果を共有、反映させていきたいので、その方策の実現にあたっては、ご出席のメンバー皆様の連携がカギになると考えており、ご協力をよろしくお願いいたします

6

成田空港の魅力をさらに高めるために 空港周辺地域の機能充実に向けた戦略

成田市において今年度より
千葉県、成田国際空港株式会社及び学識経験者の皆様にご協力をいただき、「空港立地を活かした周辺地域調査」を実施中

調査の概要

2500mB滑走路が完成し、今後、航空旅客、貨物量が増加する見込みとなり、また、成田新高速鉄道の開業、圏央道や北千葉道路の完成により、そのインパクトを効果的に空港周辺地域で受け止めようとするもの

空港と周辺地域の一体的な発展と機能形成が必要と考え、空港周辺の土地利用についての将来ビジョンを定める

将来ビジョンを踏まえ、民間開発の誘導方針(何を誘導し、何を規制するか)と行政主導の機能形成方針(波及効果拡大のため行政としてすべきこと)を定める

空港周辺における開発候補地(重点地区)を定める

7

空港周辺地域への期待

空港に近接した場所での各種サービスの提供ニーズの存在

空港利用客アンケート調査では、**食事、観光、買物、夜の遊び**などのニーズが相当ある

事業者ヒアリング調査では、**温泉、マッサージ、食事、ナイトツアー**などのニーズがある

成田の競争相手と目される東アジアの国際空港周辺では、空港立地を活かした様々な大規模開発事業を展開している

その時、**空港周辺地域での機能形成を考える視点が重要**

- 1) 空港利用客、空港周辺ホテル利用客
- 2) 空港関連事業者
- 3) 空港従業者
- 4) 市民

8

(参考): 空港利用客アンケート調査結果(その1)

調査場所: 空港出発ロビー(第1・第2ターミナルの制限区域外)

調査方法: 空港利用客のアンケート調査票への記入及び調査員の聞き取り

調査日時: 平成21年10月31日(土) 9時~16時30分

回収票数: 436票(日本人242票、外国人194票)

空港内滞在時間

3~5時間(35.1%)、2~3時間(26.6%)、5~10時間(17.2%)

日本人平均 = 3時間30分、外国人平均 = 4時間10分

空港内及び空港周辺で行った(行う予定の)こと

空港内: **食事(70.9%)、買物(61.1%)**が中心

空港周辺: 立ち寄らない(74.1%)

: 立ち寄った目的 = **買物(14.1%)、食事(13.5%)、宿泊(11.5%)、観光(10.3%)**

仮に出国前に空港周辺を訪れるとしたら

タイミング: **前泊の前日(38.5%)、チェックイン前(39.2%)、チェックイン後(22.3%)**

目的: **食事(54.1%)、観光(41.7%)、買物(40.4%)**

日本人は食事、外国人は買物の割合が高い

所要時間: 日本人 = 2.3時間、外国人 = 3.1時間

9

(参考): 空港利用客アンケート調査結果(その2)

空港をより便利なものとするために必要な機能

出発前の準備

物販施設(52.6%)、インフォメーション(46.7%)、病院・薬局(36.7%)、
渡航先の観光予約(32.4%)

待ち時間の有効活用のために

飲食店・物販施設(60.3%)、個室(39.5%)、映画館・アミューズメント(23.2%)、
シャワー・仮眠室(22.0%)、短時間の観光ツアー(20.8%)

日本人は飲食店・物販施設の割合が突出し、外国人は回答が分かれる。短時間の観光ツアーの割合も外国人のほうが多い。

空港の魅力をもつ周辺地域のあり方

ゆったりくつろげる広場や公園の整備(37.5%)

日本や地域の伝統文化・農産物等の紹介やもてなし(37.3%)

免税の物販・飲食施設やアミューズメント施設の整備(36.3%)

自然環境を活かした景観形成(34.8%)

(参考): 事業者ヒアリング調査結果(その1)

空港利用客に対するサービス向上に必要な機能確保(現状或いは将来)

空港周辺の案内が不足(独自マップを作成し利用客に対応している)

トランジット客が過ごせる場所の確保(シンガポールにはカジノがある)

貨物輸送に対するサービス向上に必要な機能確保(現状或いは将来)

駅から従業員までの従業員のアクセスの向上が必要

貨物の搬入は16~21時、搬出は午後がピークで、空港周辺で渋滞が起きているため、効率が良くない

従業員に対するサービス向上に必要な機能確保(現状或いは将来)

30万回になると、従業員が増加し、住宅需要や通勤者の駐車場需要が増加(交通渋滞の拡大につながりかねない)

従業員には、温泉、マッサージ、ボディケアなどの需要がある

従業員の昼食のために、空港周辺にレストランがほしい

観光ツアー客へのサービス向上や魅力的な観光ツアーの企画に必要な機能

地域内の回遊ができないので改善すべき

レトロバス、ホテルのサークルバスなど統一感がなく、わかりにくいので、一元化すべき

日本文化体験や、茶道、華道、房総のむらのような体験を企画してはどうか

(参考): 事業者ヒアリング調査結果(その2)

ホテル宿泊客へのサービス向上や魅力向上に必要な機能

ホテル周辺にショッピングモールがほしい(イオンは遠く、送迎も必要)

ナイトツアーについて聞かれる

外国人はウォーキングやジョギングのニーズが多く、レンタサイクルはクルーに多い

距離程付コースマップがほしい

ホテル前泊者は高齢者が多く、プールや温泉があると良い

スポーツ練習施設が周辺に充実すると、海外スポーツ大会前の宿泊誘致につながる

空港利用客の市内来訪促進のための方策

出国前の最終泊を誘致すべき

午前フライト(ヨーロッパ、アジア)の前泊

・夜に出るところがない、市内の繁華街がわかりにくい、サインが必要

午後フライトの前泊

・浅草では朝風呂企画がある、新勝寺のお祈り体験などを企画してはどうか

まちと空港と空港周辺のホテルの一体感を出すべき

交通ネットワークの一体性、案内サービスの一体性

ポーターサービスがあると良い

1000円で行けるマップ、距離感がつかめるマップがあると良い

日本体験、収穫体験、日本食でもてなし

12

空港周辺地域の現況(その1)

空港西側京成線北側地域

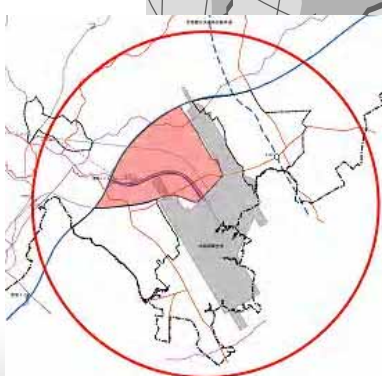
本地域の土地利用の概況

主にゴルフ場、ホテル、駐車場が立地

し、農地と集落が混在している

まとまった農地・樹林地は、果物流基

地、旧開発予定地付近に残る程度



13

空港周辺地域の現況(その2)

空港西側京成線南側地域

本地域の土地利用の概況

成田松尾線や成田小見川鹿島港線沿いの一部に物流施設等が立地
その他は、ゴルフ場、まとまった農地・樹林地



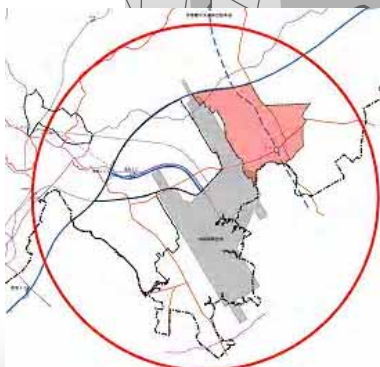
14

空港周辺地域の現況(その3)

空港東側地域

本地域の土地利用の概況

空港関連の物流や業務施設等が点在するほか、空港隣接地には、工場、駐車場、資材置き場等の多様な土地利用が点在



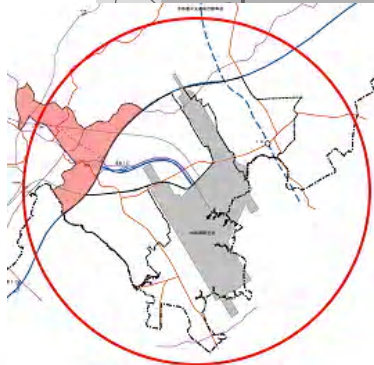
15

空港周辺地域の現況(その4)

東関東自動車道西側地域

本地域の土地利用の概況

根木名川、取香川沿いに土地改良事業による農用地区域が広がり、その周辺に集落、樹林地が広がる



16

空港周辺地域の求められる機能 ～ 空港利用客、空港周辺ホテル利用客の視点 ～

* 空港を中心とした観光圏づくり

空港を中心に、新勝寺、さくらの山等の市内の資源や房総の村、佐原のまちなみ等周辺観光地と一体的な観光地「**空港観光圏**」をつくる
外国人観光客への**サービスの周知と普及促進**を図る

帰る前の日の買物(ショッピングモール)、新勝寺参道での和体験・食の魅力
中国人など特に大きく伸びるアジアの旅行者(メディカルツーリズムなど)
成田の比較的安価な宿泊施設のPR
交通ネットワーク、サイン計画

* 観光地に相応しい景観づくり

日本の風景、田園、里山や空港百景づくり、**ゆったりとくつろげる公園整備等**を進め、空港、ホテル、市街地を自然景観で結ぶ地域づくりを行う

「空港が見える」眺望ポイントの整備、恋人の聖地、空港の夜景
「花の回廊」「自然を活かした公園」の整備

17

空港周辺地域の求められる機能 ～ 空港利用客、空港周辺ホテル利用客の視点 ～

* 空港隣接地への拠点づくり

観光施設としての空港見学の拠点、空港、ホテル、市街地を連携する象徴的な**拠点機能**を形成する



空港周辺で現在未利用のまとまった土地

空港利用客のニーズを満たすサービス拠点、免税店など可能な施設を付加
観光イベントの窓口、観光地へのアクセスターミナル
空港利用客、一般観光客、空港従業者、市民との交流拠点

* 空港内でのPR

あらゆる可能な場所で**情報発信**を行う

到着ロビーでのPR強化、出発ロビーでの新設
制限区域内でのPR

18

空港周辺地域の求められる機能 ～ 空港関連(物流)事業者の視点 ～

* 物流事業の共同施設の設置支援

輸出貨物の航空会社上屋持ち込みの効率化、輸入貨物の航空会社上屋からフォワーダー等への引渡しの効率化のための**共同上屋の設置**を支援する

物流総合効率化法を活用して特定流通業務施設を誘導(接続道路の重点整備)
共同施設専用の出入口整備

* 圏央道IC周辺への物流施設用地の確保

高速道路ネットワークにおいて北関東、信越、東北方面との利便性の高い成田空港の特徴を活かすため、**圏央道IC周辺への物流施設用地を確保**する

圏央道IC周辺～空港間の県道成田小見川鹿島港線への用地確保
「物流版ハイウェイオアシス」の可能性検討

19

空港周辺地域の求められる機能 ～ 空港関連(物流)事業者の視点 ～

* 空港東側からの空港出入口の確保

圏央道IC整備による広域からの利便性向上のため、**空港東側からの空港出入口を確保**する

空港内と周辺地域全体での物流事業に対する受け止め
成田国際空港株式会社との連携協議

* 物流関連事業者へのPRと進出促進のための優遇措置の実施

物流系不動産業や航空フォワーダー等へPRする

企業立地サポート制度等による土地取得の支援
税制上の優遇措置等の実施

20

空港周辺地域の求められる機能 ～ 空港従業者の視点 ～

* 従業員の就業支援

空港に短時間で通勤できる**住宅地の確保**と、**就業支援**を拡充する
空港内従業員の就業環境改善のため、**空港隣接地へ諸機能の形成**を図る

イオンショッピングセンター周辺への住宅地確保
24時間保育の実施による就業支援
フードコートや各種飲食店、リラクゼーション、余暇関連施設の誘導

* 従業員の通勤支援

朝の通勤時間帯の交通渋滞緩和のために、**公共交通への利用転換**を促進させる

パーク＆ライドによる通勤利便性の確保
空港周辺就業地への成田駅発着の送迎バスの運行支援
新空港自動車道スマートインターの活用促進

21

空港周辺地域の求められる機能 ～市民の視点～

* 空港と地域を結ぶ仕組みづくり

空港利用客、ホテル滞在のクルー、外国人居住者にもわかりやすいユニバーサルデザインの地域づくりを行う
到着ロビーでの案内機能の強化と出発ロビーでの案内機能の確保を行う

英語、中国語、韓国語等での案内表示、市街地への交通手段のPR
出発ロビーでの案内機能の確保(ブースの設置、イベントの開催など)
ボランティアガイドへの支援

* 自然を活かしたつながりの創出

空港と周辺地域、市街地とのつながりを創出する

「花の回廊」事業により、取香川沿いへの遊歩道、桜並木等を整備
「さくらの山」や「自然を活かした公園」によるつながりの場の確保
交通ネットワークの一体化

22

空港周辺地域の求められる機能 ～市民の視点～

* 人のつながり

空港でのイベントをとおした交流とつながりを作る
取香川を軸とした市民、ボランティア、空港利用客、従業員のつながりを作る
三里塚の資源や歴史を活かした交流の促進と三里塚の活性化を図る

空港内でのイベントの実施による成田のPR
新勝寺来訪客を空港へ導くツアーイベント等の実施
小学生等の空港見学や外国人従業者等との交流活動の促進
取香川沿いの里山を活用し、自然体験の場やホタル鑑賞の場等の整備
里山ボランティアや市民活動を支援し、市民と空港利用客、宿泊客、クルー等の交流を促進

三里塚周辺の歴史(羊、ジンギスカン発祥の地、御料牧場等)の紹介
三里塚の地域資源(三里塚記念公園、防空壕、貴賓館等)への誘客を促進

23

空港周辺地域のあり方

～今後の予定～

- 1) 将来ビジョン、民間開発の誘導方針、行政主導の機能形成方針の作成
- 2) 「重点地区」の抽出

- 1) 重点地区の導入機能メニューの整理
- 2) 導入機能毎の先進事例の分析
- 3) 重点地区の土地条件と課題の分析
- 4) 空港周辺地域における計画的な機能誘導手法の検討

- 1) 事業実現化方策の検討
- 2) 空港周辺の土地利用ガイドラインの検討

24

成田国際空港都市づくり9市町プラン

成田空港周辺9市町では、空港を共通の財産として活用し、地域と空港が共生・共栄する魅力ある国際空港都市を目指す

地域で空港を支え、育て、各々が空港があるメリットを実感できまちづくりを推進するため、「都市基盤の整備」、「産業の振興」、「観光・地域文化の振興」、「国際交流・国際教育の推進」を4本の柱とした9市町プランを策定した

現在、9市町共同のホームページを作成中であり、これを基にきめ細やかな情報発信を図る

9市町プランで選定した重点プロジェクト等について、成田空港緊急戦略プロジェクト会議と連携を密に推進を図る

25

ま と め

- 提言(1) 「成田は遠い」イメージ払拭のための関係者官民一体となった徹底的なPR戦略
- 提言(2) 成田リピーターを優遇する関係者一体となった仕組みづくり
- 提言(3) 自動車アクセス網整備と自動車アクセスの強化
- 提言(4) 企業立地促進のための優遇措置とその誘致戦略
- 提言(5) 「観光圏整備法」の適用への取り組み
- 提言(6) 空港内での情報発信機能の充実
- 提言(7) 空港周辺地域の将来ビジョンを実現化するための支援
- 提言(8) 成田国際空港都市づくり9市町プランの重点プロジェクト等への対応